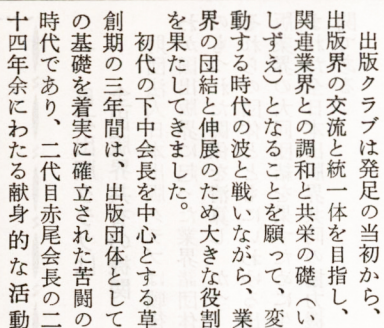




財団法人日本出版クラブは本年九月十八日をもって、創立後滿三十年の歳月を閲(けみ)しました。九月一日現在で四百三十一社(出版社三百九十三社、関連社三十六社、個人二人)の維持員を擁する出版関連総合団体に成長を遂げたわけ、ここに三十年の意義深い慶節を迎えるにあたり、全維持員の皆様と共に祝賀いたしたいと存じます。

出版クラブ会報
第224号

は、多面的・総合的に出版クラブ事業を拡大し、内外にその名を高めた発展期と申すことができましよう。

五十五年十二月からは、計らずも不肖な私が偉大な先人の業績を受け継いだわけですが、低成長の時期でもあり、これまでの

創立三十周年を迎えて

記録をとどめ、年史を創る

事業を整備し、調整するという立場で現在に至っております。ただ、いつの時代にあっても、会長を助けて苦勞を惜しまなかった役員各位のご努力と、維持員の皆さんの暖かいご支援が、今日の出版クラブを築き上げたものということが出来ます。

いま過ぎ去った三十年の春秋を
振り返りますと、かつては共に励
まし合つた同志で既に世を去つた
人もあり、また第一線を退いて自

主 記 事

▽財団法人日本出版クラブ創立三十
〃記録をとどめ、年史を創る〃

▽財団法人日本出版クラブ創立時の
▽日本出版クラブ創立記念特集

〃わたしの三十年〃

▽祝 詩

▽桃園書房創立三十五周年を顧みて
▽八出版歳時記▽人間頭脳の後退

過の生活に入られた方も多く、世
代交替という大きな時の流れを痛
感させられます。

現在の出版クラブは、樹木にたとえれば、土を耕し、種子を播き、水をやって苗を育て、若木の成長を培った人と、花を咲かせ、剪

定の銚を入れて姿を整え、大樹への繁茂に努める人が共存するという状況にあるわけで、今こそ新旧の立場を超えて高い理念を掲げ、一致して出版業界の発展に尽すべき時であると考えます。

ところで、出版クラブにはこれまで自らの歩みを記録した年史がまだ作られていません。出版人の団体としては、これは不思議なことでもあるわけですが、考える

周年を迎えて……………武内俊三……一
ひとこま……………田中剛三郎……二〇三
△維持員寄稿△四〇十
……………横山實……七
……………唐沢好雄……十一
……………耽……十二

と、年史の存在しないことが、そのまま出版クラブの背負ってきた歴史だといえるのかも知れませんが。戦後の出版界が当面した混乱と確執の暗い時代を突き抜けて、出版クラブが誕生を見たわけで、その生い立ちにまつわるしこりのような残滓（ざんし）が、過ぎ去

武内俊三
(たけうち・としぞう)

(たけうち・としぞう)

ったことをいまして——という
思いに至らしめていたともいえま
しょう。

しかし三十年の歴史は、世代の転換を画する年限の時期でもあり、後世にその足跡が誤って伝えられるおそれを考えれば、いつまでも年史不存の状況が続けるわけにはまいりません。そこでこの度『出版クラブ三十年史』の編纂を決定し、明年度完成の予定で進行に着手いたしました。

それの立場から出版クラブとの関わりについて、資料のご提供や執筆のお願いをすることになると思いますが、その折にはどうかよろしくご協力の程をお願いいたします。

さていま、出版クラブ創立三十周年の記念すべき時点になった。今後の展望を考えますと、その前途には希望と共に多くの困難な課題が横たわっています。出版物の返品増、供給過剰、低成長といった具体的な影響で、量から質へ、質から個性化へ、個性化から乱立立への激しい競合が余儀なくされ、一方視覚情報システムの普及による、新しい文化情報伝達方法への選択が迫られています。

こうした情勢の下で、出版クラブが果たさねばならぬ役割もまた、時代と共に変わっていかねばならないと申せましょう。その意味で、今後出版クラブが実施する諸事業について、維持員の皆さんからはぜひご忌憚のない要望をお聞かせいただき、その主旨を活かした活動を展開してまいりたいと考えています。どうかより一層のご支援をたまわりますようお願いいたします。

終わりに、出版クラブの創立以來多年にわたつてその發展にご尽力下さつた、多数の功労者の皆様に心から感謝を申し述べ、日本出版クラブ三十周年を祝うごあいさつにいたします。

(雄鶏社社長、出版クラブ会長)